

# 4年ぶりに 復活！

# 青葉まつり



間、施設の中だけでのお楽しみ会だったため、青葉まつりをコロナ禍でどう復活させるか。ボランティアとして参加する学生や地域の皆さんと実行委員会をつくり、多くの意見を取り入れながら、知恵を絞った。招待する住民や来賓の数を少なくするとともに、集団になりやすい子どもたちの舞台発表も最低限に。また、ボランティアの皆さんには、抗原検査も行つた。



和哲也さんに登場いたた  
き、大盛り上がり。多く  
の卒園生も来場し、職員  
たちと楽しく交流する姿  
も見られた。卒園生にと  
って施設はあるさとであ  
ると実感し、退園後の相  
談機能も求められている  
と改めて感じた。生き生  
きと活動する職員の姿も  
見られ、青葉まつりを復  
活させてよかつたと心か  
ら思う。これからも、地  
域とともにある開かれた  
施設として、ウイズコロ  
ナで青葉まつりを開催し  
ていきたい。（阿尾）

（小宮）ほてに糧り難い達はなうの結果に結びついた。団体戦でも金メダル獲得に意気込んでいた。何度も切った。この仲間との経験が、かでうと思ふ。かでうと思ふ。



監督に就任し、初めての夏。これまで、練習では出来ていても、本番で力を発揮しきれず、共に悔しい思いをしてきた。今年は、普段の練習からプレッシャーをかけ、どんな状況でも思い切ったプレーができる自信を持つことを目標に、多くの方に協力を頂きながら準備をしてきた。昨年度の団体戦で悔しい経験をした部員と高校生を中心には、不利な状況でも、思

第25号

発行  
社会福祉法人  
中日新聞社会事業団  
中日青葉学園  
電話 0561(72)0134

性別平等

ソフトホール部

### ▶ 夏の目的別活動

むことができ、ボールが上手く捕れるようになつたり、監督に褒められたり、チームメイトから応援されることで自信へと繋がる。

私はこれからも子どもたち一人ひとりが自信を持った人間になれるよう、ソフトボールを通じて、学んでもらい、育っていく。(園原)

ルを行うほとんどの子どもが初心者であり、グローブですらはめたことがない子も少なくない。私がソフト指導を行っていく際に一番大切にしていることは『ソフトボールを好きになつてもう』こと。人は好きなことには前向きに取り組

私がこの中日青葉学園に入社してから18年間子どもたちにソフトボール指導を行ってきました。施設で

しかししながら、実施直前に複数の児童が新型コロナウイルス感染症に罹患するなどしたことから延期。夏休みも終盤の8月下旬に、内容を大きく変更し、映画鑑賞、園庭での流しそうめん、花火、水遊びなどを楽しみました。流しそうめんでは、子どもは、小学校から竹を提供して貰い、竹

この夏休み、今までの失われた機会を取り戻すべく、あわば館、わかば館とともに夏休み期間を利用して目的別活動を実施しました。

夏の目的 小となりました。本来であれば、子ども達は、行事から数多くの経験をして、成長の糧としていたはずですが、その機会が奪われ続けていることは残念でなりません。

コロナ禍も2年半と長期化し、その間に実施する予定だった多くの行事が中止や規模縮

を切つたり節を抜くなどの準備から参加。慣れな  
い作業に苦戦しながらも笑顔で取り組むことがで  
きました。

